

令和元年度 第2回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日時 令和元年（2019年）12月16日（月）14時30分～16時30分

2 場所 長野県白馬高等学校会議室

3 出席者 委員10名（下川委員代理者：横山秋一白馬村副村長）

この他、長野県教育委員会事務局高校教育課2名

白馬・小谷両村関係者5名

白馬高等学校職員4名



4 次第

(1) 開会の言葉

(2) 長野県教育委員会あいさつ（高校教育課高校改革推進係 駒瀬係長）

(3) 白馬高等学校長あいさつ（臼井校長）

(4) 報告事項

① 学校の現状報告（臼井校長）

【報告についての質問や意見】

<岸委員>

○ 全国募集生徒の志願数減少見込みについて、そんなに悲観しなくてもよいのではないか。白馬高校の取組みは、村や企業、住民、学校がひとつになってできたことであり、他校ではまねができない取組みだ。この先、先駆けとして君臨するにはどうすればよいかを考えていきたい。

<伊藤委員>

○ グローバル講演会で講師をされた山口進氏が、白馬高校生の目がキラキラしていて、若者に希望をもてたと話されていた。

○ 英検準一級合格者がいるのは素晴らしいこと。

○ コンソーシアムによる大学在学中のインターンシップは、白馬の事情を知っている学生が来ることにより村にも大学にもウィンウィンの関係ができ、とてもよいアイデアだ。

<横澤委員>

○ 産官学による地域との協働がさらに密になってきているように思う。ここにはどこにも負けない地域力がある。自信を持って全国に発信してよいと考える。

<白戸会長>

○ 新学科開設前、観光系学科の設置には慎重に臨んだ方がよいと関係者に話したことを思い出す。観光系学部を新設して失敗している大学もある。白馬がここまで成果があがっているのは、地域の強力な支えに応えようと、先生方が一生懸命取り組んでいるからだと思う。

② 白馬山麓事務組合からの報告（平塚局長）

【報告についての質問や意見】（→は平塚局長による回答）

<伊藤委員>

○ （全国募集の）生徒自らの意志ではなくて、保護者が白馬高校進学を促しているのは白馬の何がそうさせていると考えられるか。

→ 白馬でスキーをした等、保護者自身の体験が白馬への憧れにつながっているようだ。

(5) 生徒発表

- ①バーチャロンプロジェクト
- ②グローバル気候マーチ in 白馬

【発表についての質問や意見】（→は浅井教諭による補足説明）



<伊藤委員>

- どんどん（教室で学ぶのとは）違う力がついてきていて頼もしく感じる。

<加藤委員>

- （発表した生徒たちに）SDG sについて小谷中学校の生徒にぜひ話をしに来てほしい。

<伊藤委員>

- 白馬フォーラムでの発表は環境への取組みがもっと具体的で、大人への注文もあったと思うが。
→ 今回のプレゼンは先日のマイプロ（長野県高校生「私のプロジェクト」発表大会）で発表したもの。プロジェクトの経過報告ではなく、自分と向き合い、プロジェクトによってどんな感情の変化があったかということを中心に発表したものだ。

<岸委員>

- 社会のことをここまで真剣に高校生が考えていることに驚いた。「飲み物が欲しいのにゴミ（容器）を一緒に買う必要はない」という発言に感動。マイボトルを持っていないと買えない自動販売機などがあるとよいのではと考えさせられた。

<白戸会長>

- 環境問題は一人ひとりの取組みの積み重ね。自分の地域が世界の中でどういうところにあるのか、鳥の目と虫の目で見ることによって学びが深まる。よい学習テーマが出てきたと考える。

(6) その他

<武田委員>

- 寮には個性的でパワーあふれる子どもたちが大勢いる。子どもたちの夢をつぶさないように受け入れながら、行き過ぎた行動には、「ここが違うよ。」というように諭しながら、私たち地域住民も一体となって白馬高校生を育てていきたい。学校は地域へ手伝って欲しいと発信していけばよい。そして、生徒たちの中に卒業後に白馬に戻りたいという気持ちが生まれればよいと思う。

<伊藤委員>

- 白馬の課題に後継者問題がある。地域のよいところ、伝統的な行事等に白馬高校生にもっと関わってもらい、そこで地域住民ともっと話をする機会を持つと、地域の課題を住民が高校生とともに考えるようになり、新しい発想や新しい流れが生まれるのではないかと考える。

<事務局より>

- 第3回学校運営協議会は来年2月に開催を予定。

(7) 閉式の言葉